

学校法人多摩美術大学の平成20年度(2008年度)の事業報告をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

1. 事業の概況

アメリカの金融不安に端を発した世界同時不況の影響で、自動車業界をはじめ、日本の3大銀行までが赤字を計上する状況に立ち至りました。また、新型インフルエンザの世界規模での感染が危惧されるなど先行きの不透明感が増大する中、企業の求人件数も減少し、学生の就職活動も厳しさを増しています。

私立大学を取り巻く環境は、少子化が進展し、4年制私立大学の数も昨年の559校から589校に増加した結果、平成20年度の入試では定員割れ私大が昨年の221校から266校と増え、その比率も39.7%から47.1%に上昇し、ほぼ2校に1校が定員割れの状況です。特に入学定員800人未満の地方の小中規模校の定員割れが鮮明となり、逆に大都市大規模校では志願者の増えているところも多く、大都市大規模校への集中と、地方・小中規模校の不振という、大学の二極化が一段と進んでいます。

18才人口は平成27年(2015年)頃まで120万人台での安定推移が見込まれるものの、そのあとと大きく減少するものと予測されています。私立大学の財政運営は大変厳しい時代に入っておりますが、いわばこの「踊り場」の時期に将来を見据えた大学の基盤を確立し、教育体制を再構築することが求められています。具体的には、国からの認証を受けた第三者機関による認証評価制度や私学法改正に基づく管理運営制度の強化、財務情報公開制度による大学の質の向上と広く社会に向けた説明責任を果たす運営体制が求められています。

こうした状況にあって、本学は、質の高い学生を集め、時代を先取りした教育を進めるため、建学の理念に基き、さらなる改革への取組みを進めています。

◎大学改革の推進

本学は平成4年に教育充実検討委員会を発足させ、その中に自己点検・評価部会を設けて、自己点検・評価活動を行ってきました。平成16年に学校教育法の改正により7年に1度認証評価を受けることが義務付けられたので、平成20年1月に大学基準協会に認証評価を申請し、10月に実地視察を受けました。その評価の結果は平成21年3月に公表され、大学基準に適合していると認定されました。ただ、勧告はなかったものの、いくつか助言をいただいたので、さらに自らの質を保証するシステムの構築に取り組みたいと思います。

また、直接大学運営には関係ありませんが、昨年本学の卒業生が「短編アニメーション部門」で米国アカデミー賞を受賞し、国内で大きく報道されました。卒業生の活躍が刺激となって、学内にフィードバックされ良い効果を生んでいると思われまます。

次に、国際交流では文科省の現代GPに採択されている「バナナ・テキスタイル・プロジェクト」が、アフリカのルワンダ共和国とウガンダ共和国の招聘を受け、教授・学生8名が現地でワークショップを実施し、大きな成果をあげました。また、同じく文科省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「異文化相互批評が可能にする高度人材育成」通称CO-CORE(ココア)プロジェクトが昨年引き続き国際講評会を国外で行い、3月には3カ国25名の学生を招いて「ART & DESIGN 国際講評会・東京」が開催されました。さらにパシフィックリム・プロジェクトは3年目を迎え、アメリカンステージに10名の学生が参加しました。そして、あらたにベルリン芸術大学と国際交流協定の締結をいたしました。

◎管理運営面の改革推進

- 大学運営 前年度に研究資金の管理部門として、研究支援部を立上げますが、文部科学省より引き続き補助金管理体制の整備が求められているのに対し、学内の不正不法行為に対する通報窓口である「大学倫理ホットライン」を設けたのをはじめ、学内ルールの整備を行いました。
- 労務管理 職員の健康管理のため、残業時間の削減と振替休日の取得の確認をすすめ、前年度比で残業時間を2割削減しました。
- 施設管理 今年度より、大学キャンパス施設を包括的に管理するため1社に業務委託を行いました。これによりメンテナンスの効率化を進めます。

◎施設整備

- 校舎等建設関係
八王子キャンパス彫刻棟石彫室・諸材料室・集塵設備設置工事を実施しました。
また多摩センターの美術館の空調設備の改修工事を実施。
ほかに上野毛キャンパス2号館トイレ改修工事実施。
その他

◎当期に行った主な事業

- 他大学との協定等
ドイツのベルリン芸術大学と国際交流協定を結び交換留学を進めます。
東京都市大学(旧武蔵工業大学)と共同研究等に向け包括的連携の調印をしました。
- 多摩美術大学奨学金等の充実
多摩美術大学特別優秀奨学金、交換留学生奨学金をあらたに創設し、従来の学内奨学金の増額も含め1千万円増額し、給付奨学金を総額で1億1千万円とした。
- 留年者の学費の取り扱い改定
卒業判定による留年者の次年度以降の学費の取り扱いを軽減する措置を行った。

◎事務部門における主な事業

- 各事務部門における主な報告は以下の通りです。
- 企画広報部 …入試広報の充実、オープンキャンパスの土日開催、サブパンフ、入試ガイド等の発行など。
 - 教務部 …大学基準協会の加盟申請の取組、学士課程の総合的な見直し、PBL科目編成の充実化、交換留学制度の確立、各種委員会の実質的運営、大学院の実質化。
 - 研究支援部 …適正な資金管理のための学内体制の整備強化と、告発窓口としての「大学倫理ホットライン」の設置、新規資金獲得、HP立ち上げ。
 - 学生部 …学生生活支援強化、奨学金の充実、課外活動・学生相談支援強化、キャリア教育を意識した支援体制の構築、就職ガイダンスの強化。
 - 造形表現学部事務部 …入試・教務の新システム導入、学生支援強化、地域連携強化。
 - 図書館 …所蔵資料展示4回、アーケードギャラリーの活性化、システムのバージョンアップ。
 - 美術館 …年間13本の企画展、博物館実習、共同研究への参画。
 - メディアセンター …学内・産学共同研究推進、施設の環境整備と技術支援強化、CMTEL開設。
 - 芸術人類学研究所 …友の会設立、会報誌発行、芸術人類学叢書創刊、シンポジウム開催など成果発信。
 - 生涯学習センター …新規講座の展開、地域・関係公的機関等との連携の充実、高校との単位認定協力。

平成20年度予算の執行状況

当期の予算執行状況について、概要を報告します。
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

(1) 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,754,800	7,941,214	△186,414
手数料収入	261,450	253,919	7,531
寄付金収入	2,000	4,697	△2,697
補助金収入	578,350	722,784	△144,434
資産運用収入	93,900	161,635	△67,735
資産売却収入	600,000	1,300,092	△700,092
事業収入	76,600	98,140	△21,540
雑収入	148,950	266,631	△117,681
前受金収入	2,987,900	3,391,265	△403,365
その他の収入	125,905	122,579	3,326
資金収入調整勘定	△3,556,155	△3,670,928	114,773
当年度資金収入合計(A)	9,073,700	10,592,028	△1,518,328
前年度繰越支払資金	5,761,123	5,761,123	0
収入の部合計	14,834,823	16,353,151	△1,518,328

生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻の収容定員増等により美術学部の学生数が増加し予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金652,667千円の他、大学改革推進等補助金「特色ある大学支援プログラム15,500千円」と「現代的教育ニーズ取組支援プログラム16,500千円」および「大学院教育改革支援プログラム19,800千円」や「政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金15,785千円」等の交付により予算額を上回りました。

大口定期預金金利の上昇や長期有価証券での資金運用により予算額を上回りました。

国債、政府保証債等の長期有価証券や政府短期証券等の短期有価証券の満期による償還額です。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,989,400	3,865,352	124,048
教育研究経費支出	1,844,000	1,578,940	265,060
管理経費支出	366,700	303,299	63,401
借入金等利息支出	92,100	91,295	805
借入金等返済支出	595,400	595,390	10
施設関係支出	578,000	108,037	469,963
設備関係支出	451,500	243,800	207,700
資産運用支出	2,499,100	2,499,074	26
その他の支出	229,265	229,044	221
予備費	91,400	—	91,400
資金支出調整勘定	△299,084	△346,090	47,006
当年度資金支出合計(B)	10,437,781	9,168,141	1,269,640
次年度繰越支払資金	4,397,042	7,185,010	△2,787,968
支出の部合計	14,834,823	16,353,151	△1,518,328

運營業務の外注費用や光熱水費の増加、奨学金10,000千円の増額およびPCソフトや周辺消耗品の増加を見込みましたが予算額を下回りました。

美術館空調改修工事や演劇実習室改修等の緊急性の高い工事を実施しました。

多摩美術大学奨学金の原資の一部である受取利息の増加を計るため、国債や政府保証債、財投機関債等を中心とする債券を購入しました。施設整備資金である第2号基本金引当資産として15億円設定しました。

上記により、次年度繰越支払資金が増加しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,364,081	1,423,887	△2,787,968
------------------	------------	-----------	------------

(2) 消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

【消費収支計算総括表】

(消費収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,754,800	7,941,214	△186,414
手数料	261,450	253,919	7,531
寄付金	2,000	5,825	△3,825
補助金	578,350	722,784	△144,434
資産運用収入	93,900	161,635	△67,735
資産売却差額	0	553	△553
事業収入	76,600	98,140	△21,540
雑収入	148,950	266,631	△117,681
帰属収入	8,916,050	9,450,701	△534,651
基本金組入額合計	△2,539,500	△1,686,166	△853,334
消費収入の部合計	6,376,550	7,764,535	△1,387,985

現金4,698千円その他、現物寄付金として科学研究費補助金から購入されたPC関連機材1,127千円相当額の受贈がありました。

国債や政府保証債、財投機関債など信用リスクの低い長期債券および銀行大口定期預金などでの運用の結果予算を上回りました。

科学技術振興機構「CREST」などの産学共同の受託研究収入および生涯学習講座の受講料収入で予算を上回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	4,010,800	3,848,353	162,447
教育研究経費	3,443,800	3,178,655	265,145
(うち減価償却額)	1,599,800	1,599,716	84
管理経費	488,500	421,606	66,894
(うち減価償却額)	121,800	118,306	3,494
借入金等利息	92,100	91,295	805
資産処分差額	21,000	135	20,865
徴収不能額	500	500	0
予備費	316,100	—	316,100
消費支出の部合計	8,372,800	7,540,544	832,256

キャンパス整備の充実による建物や機器備品などの資産の増加とともに減価償却額が増額しています。

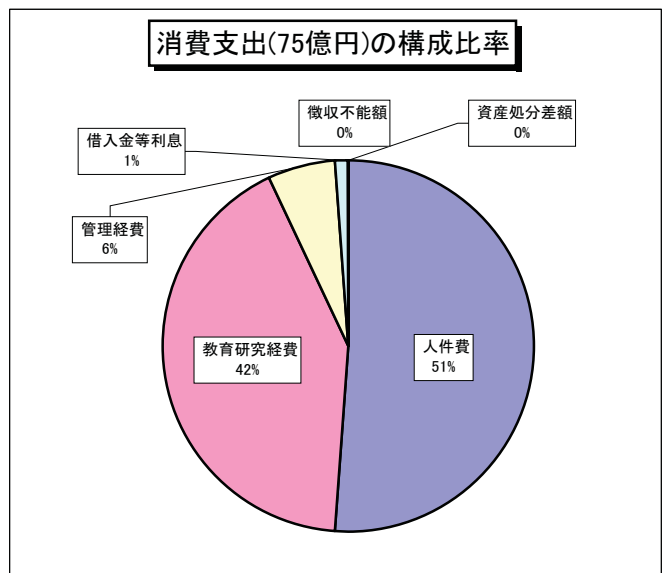
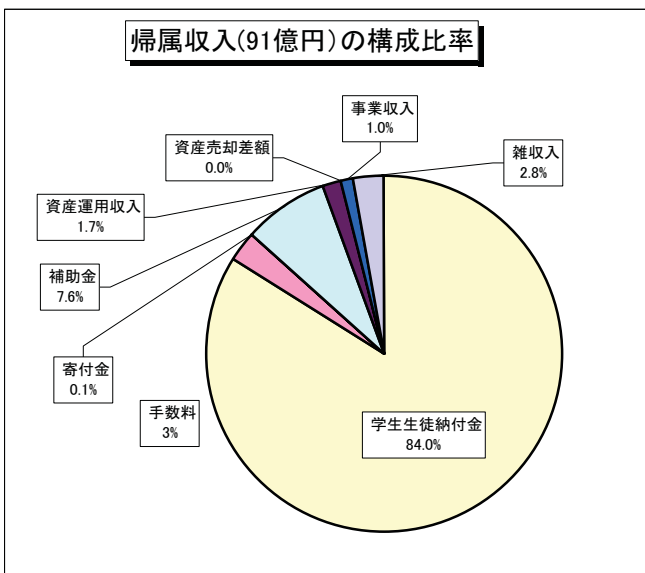
効率的な運営により管理経費を削減し教育研究に回す資金を確保しています。

上記の結果、帰属収入は534百万円予算を上回り、帰属収支差額比率は20.25%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金として充当されます。当年度は7年ぶりに消費収入超過224百万円となり翌年度繰越消費支出超過額は△6,480百万円になりました。この消費支出超過額は、自己資金による施設設備充実の結果生じた多額の基本金組入額によるもので、中長期的には消費支出超過額を解消し今後も消費収支の均衡が図られる運営をめざします。

帰属収支差額 (注1)	543,250	1,910,157	△1,366,907
帰属収支差額比率 (注2)	6.1%	20.2%	—
当年度消費支出超過額	△1,996,250	223,991	—
前年度消費支出超過額	△6,703,836	△6,703,836	—
翌年度繰越消費支出超過額	△8,700,086	△6,479,845	—

注1 帰属収支差額=帰属収入-消費支出

注2 帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100



4. 貸借対照表

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目	H20年度末	H19年度末	増減
固定資産	54,439,345	54,205,438	233,907
有形固定資産	41,106,425	42,471,617	△1,365,192
その他の固定資産	13,332,920	11,733,821	1,599,099
流動資産	7,515,226	6,317,745	1,197,481
合計	61,954,571	60,523,183	1,431,388

建物＝美術館 空調設備改修
造形表現学部 演劇実習室改修
構築物＝美術学部 テキスタイル棟リサイクルコンテナ倉庫設置
教育研究用機器備品
美術学部＝バックフィルター集塵機、Mac2.4GHz44台他
造形表現学部＝MacCTO37台、集塵機B-10型他

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H20年度末	H19年度末	増減
固定負債	4,440,486	5,052,875	△612,389
流動負債	4,533,501	4,399,881	133,620
計	8,973,987	9,452,756	△478,769
第1号基本金	54,140,519	53,987,353	153,166
第2号基本金	4,500,000	3,000,000	1,500,000
第3号基本金	339,910	338,910	1,000
第4号基本金	480,000	448,000	32,000
計	59,460,429	57,774,263	1,686,166
消費収支差額	△6,479,845	△6,703,836	223,991
負債、基本金、消費収支差額の部合計	61,954,571	60,523,183	1,431,388

資産運用の長期有価証券は1億円増加し54.9億円 (H21/3月末の有価証券取得価額に対する評価額はプラス75百万円)、多摩美術大学施設整備資金引当資産(第2号基本金引当預金)が15億円増加し45億円、3号基本金引当資産が1百万円増加の3.4億円

現金預金は1,424百万円増加し7,185百万円、短期有価証券は償還により残高0円、未収入金は173百万円増加し291百万円

長期借入金残高は返済により減少し2,297百万円 退職給与引当金は2,143百万円

(参考)

正味資産額	52,980,584	51,070,427	1,910,157
※正味資産＝資産-負債			
減価償却額の累計額	13,177,715	11,957,342	1,220,373
基本金未組入額	482,492	490,115	△7,623

平成19年度自己資金による固定資産の新規取得や過年度の固定資産取得にかかる借入金返済額相当を基本金へ組入れました。

貸借対照表についてH18年度～H16年度を報告します。

(資産の部) (単位:千円)

科目	H18年度末	H17年度末	H16年度末
固定資産	55,130,210	50,648,394	47,554,848
有形固定資産	42,752,306	38,219,598	38,124,640
その他の固定資産	12,377,904	12,428,796	9,430,208
流動資産	5,585,388	7,488,416	9,384,007
合計	60,715,598	58,136,810	56,938,855

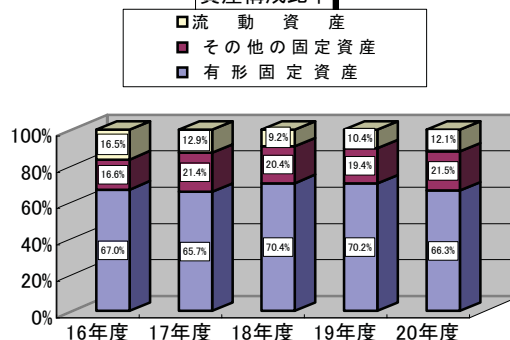
(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H18年度末	H17年度末	H16年度末
固定負債	5,646,020	6,271,719	6,917,950
流動負債	5,423,815	4,458,054	4,235,344
計	11,069,835	10,729,773	11,153,294
第1号基本金	52,563,441	47,628,567	45,683,198
第2号基本金	1,500,000	2,200,000	1,500,000
第3号基本金	283,910	233,910	233,910
第4号基本金	448,000	439,000	435,000
計	54,795,351	50,501,477	47,852,108
消費収支差額	△5,149,588	△3,094,440	△2,066,547
負債、基本金、消費収支差額の部合計	60,715,598	58,136,810	56,938,855

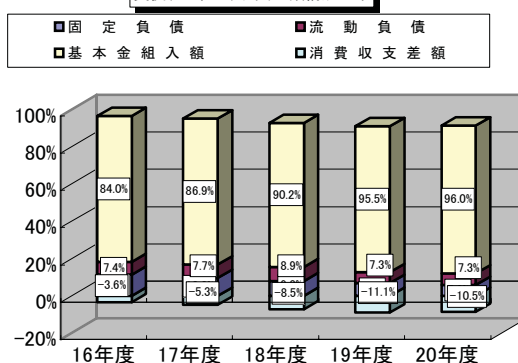
(参考)

正味資産額	49,645,763	47,407,037	45,785,561
※正味資産＝資産-負債			
減価償却額の累計額	11,086,863	9,806,023	9,118,662
基本金未組入額	1,605,677	999,327	1,562,378

資産構成比率



負債、基本金、収支差額構成比率



5. 財務比率<平成2001年度から平成2008年度>

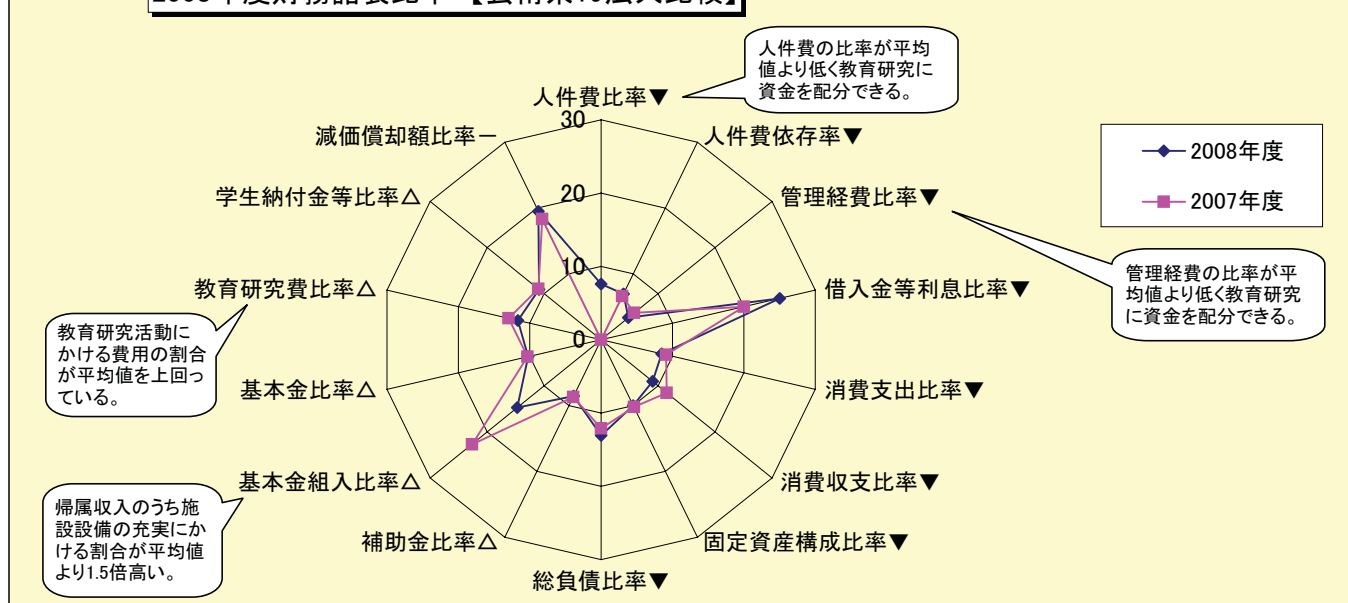
※芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成20年度版より算出しました。

項目	算式	評価	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	36.6%	40.3%	38.9%	40.5%	40.4%	39.1%	40.7%	53.7%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	46.2%	46.9%	45.2%	47.3%	46.9%	45.9%	48.5%	69.7%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	3.7%	3.6%	4.6%	5.2%	4.4%	5.1%	4.5%	9.4%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	1.9%	1.9%	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%	0.4%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	▼	72.8%	72.6%	76.2%	82.3%	75.4%	84.5%	79.8%	94.2%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	100.3%	145.3%	111.7%	115.8%	143.0%	125.0%	97.1%	107.2%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	74.3%	77.6%	83.5%	87.1%	90.8%	89.6%	87.9%	87.9%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	22.4%	20.8%	19.6%	18.5%	18.2%	15.6%	14.5%	11.1%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	6.2%	6.5%	5.4%	6.6%	6.1%	7.3%	7.6%	8.9%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	27.4%	50.0%	30.0%	29.0%	47.3%	32.4%	17.8%	12.1%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	93.9%	95.7%	96.8%	97.9%	97.0%	99.1%	99.1%	97.1%
教育研究費経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	26.7%	26.3%	29.2%	34.7%	29.1%	36.5%	33.6%	28.8%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$	△	85.8%	86.0%	86.2%	85.6%	86.0%	85.0%	84.0%	77.0%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	16.4%	17.6%	19.3%	25.2%	20.5%	21.2%	22.8%	11.7%

【比率分析の見方】

人件費比率＝帰属収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
 人件費依存率＝学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
 借入金等利息比率＝低い方が望ましい。本学は八王子キャンパス整備の際の借入金残高が多く平均値を上回っている。
 管理経費比率＝帰属収入に対する管理費用の割合で低い方が望ましい。
 消費支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
 消費収支比率＝消費収入に対する消費支出の割合で低い方が望ましく比率が100%を超えると支出超過(赤字)となる。
 固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が望ましい、比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
 総負債比率＝低い方が望ましい。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
 補助金比率＝私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、GPなど競争的補助金の積極的な取り組みにより増加。
 基本金組入比率＝高い方が望ましいとされる。長期に亘る八王子キャンパス整備により組入れ比率が高水準。
 基本金比率＝基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が望ましい。
 教育研究費経費比率＝帰属収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が望ましい。
 学生納付金等比率＝帰属収入の中で最もウエートが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
 減価償却額比率＝将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。

2008年度財務諸表比率【芸術系19法人比較】



【まとめ】

平成20年度末における本学の財政状況は、多額の資金を要した八王子キャンパス整備実施の際に日本私立学校振興・共済事業団を中心に資金を借り入れたことから総負債比率が平均値より若干高くはありますが、負債を返済するための資金ストックおよび毎年度の帰属収支差額に不足なく、今後とも安定的な運営資金が十分確保されております。

6. 法人の概要

設置する学部学科の名称および入学定員と学生数

【大学・学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数
八王子	美術学部	絵画学科	日本画	190	741	(161)
			油画			850
			版画			(545)
		彫刻学科		30	120	141
		工芸学科	陶	60	240	263
			ガラス			
			金属			
		グラフィックデザイン学科		180	686	770
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン	100	340	(226)
			テキスタイルデザイン			(185)
環境デザイン学科		80	310	356		
情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	120	480	554		
芸術学科		55	220	255		
小計		815	3137	3600		
上野毛	造形表現学部	造形学科		40	160	182
		デザイン学科		100	400	436
		映像演劇学科		60	240	276
		小計		200	800	894
合計				1,015	3,937	4,494

カッコ内は専攻の内数

【大学院】

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数
八王子 及び 上野毛	美術研究科 (博士前期課程)	絵画専攻	日本画	60	120	123
			油画			
			版画			
		彫刻専攻		12	24	12
		工芸専攻		10	20	21
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	89
	芸術学専攻		7	14	16	
	小計		134	268	261	
	(博士後期課程)	美術専攻		7	21	26
合計				141	289	287

総計				1,156	4,226	4,781
----	--	--	--	-------	-------	-------

平成20年5月1日現在

所在地

- 法人本部・造形表現学部・大学院
〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
- 美術学部・大学院
〒192-0394 東京都八王子市鍵水2-1723
- 美術館
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1

役員・評議員・教職員の概要

【役員】

理事長	藤谷 宣人
理事(学長)	清田 義英
理事	岩倉 信弥
理事	大津 英敏
理事	東海林 隆
理事	高橋 史郎
理事	竹田 光幸
理事	中島 祥文
理事	本江 邦夫
監事	飛鳥田 一朗
監事	森 三千郎

【評議員】

評議員	荒川 直
評議員	五十嵐 威暢
評議員	岩倉 信弥
評議員	大津 英敏
評議員	清田 義英
評議員	高橋 史郎
評議員	田口 敦子
評議員	竹田 光幸
評議員	鶴見 雅夫
評議員	中島 祥文
評議員	中野 嘉之
評議員	橋本 京子
評議員	秦 剛平
評議員	平出 隆
評議員	福島 勝則
評議員	藤谷 宣人
評議員	室越 健美
評議員	本江 邦夫
評議員	森下 清子
評議員	山中 玄三郎

【教職員の概要(専任)】

大学教員	180名
職員	166名

平成20年5月1日現在